

地域の皆様と利用者様をつなぐ架け橋

南山城学園のカフェや商品をご紹介します。



ふちぼんと kitchen+farm

自家農園で作った野菜を使用。
11:00～16:30 (LO 16:00)
ランチタイム 11:00～14:00
(休) 日曜、月曜、第3土曜
京都府城陽市富野東田部69番地1
障害者支援施設「凜」内
TEL 0774-56-7881



カフェ ふらんたん

テラス席もある一軒家。
10:00～16:30
ランチタイム 11:00～14:00
(休) 第1月曜、日曜・祝日
(第3日曜日は営業)
京都市伏見区日野西川類4番地2
TEL 075-575-2413



カフェ さびゅい

低農薬野菜のお料理を提供。
10:00～15:00 (LO 14:30)
ランチタイム 11:00～14:00
(休) 日曜・祝日
京都府宇治市宇治蔭山9番地11
地域福祉支援センター宇治小倉内
TEL 0774-23-0338



食パン

デイセンター「ふらっぴ」
就労継続支援B型の作業として食パンや
ラスクの製造を行っています。和三盆を使用
し、まろやかな甘みが特徴です。



クッキー

障害者支援施設「翼」
プロの指導を受けリニューアル。法人の保
護者会などで販売。お土産などに少量から
でも注文を受け付けています。



低農薬野菜

「ふちぼんとファーム」(京田辺市)
障害者支援施設「魁」
カフェ「ふちぼんとkitchen+farm」で提供
するほか、京都市内のノウフクマルシェや
クロスビア久御山にて販売。



堆肥

障害者支援施設「円」
枯れ草を利用して作った堆肥は、近隣農
家さんに人気です!収益の一部を「みどりの
まちづくり基金」に寄付。



アロマキャンドル

障害者支援施設「光」
株式会社モンサンミッシェルとのコラボ
商品として製作。



さをり織り・縫製・木工等商品

障害者支援施設「和」
身体障害者デイサービスセンター「すいんぐ」
知的障害者デイサービスセンター「あっぱ」
ポーチ、ティッシュカバー、ブランケットカバー、
座布団など。京都府聴覚言語障害センター
内「あんだんて」(JR城陽駅徒歩5分)や
バザー等にて販売。



ANNUAL REPORT

事業報告書 MINAMI
YAMASHIRO
2019 GAKUEN



地域の 皆様とともに

minami yamashiro gakuen

2019.4-2020.3



子ども食堂の実施

城陽エリア・醍醐エリアにて、子どもの居場所づくりとして「ダイニングあんさんぶる」を企画・運営しています。月1回、地域のボランティアの方とともに開催しています。



地域に開かれた お祭り

城陽エリアの「彩雲祭」では、ポッチャ大会やバルーンアート、城陽市立富野小学校や京都府立宇治支援学校の皆様の作品展示などを行い、約800名の来場がありました。発達障害セミナーも同時開催しました。



醍醐エリアの「和光祭」には約1,000名が来場し、チャリレーディングやゴスペルフラダンス、大道芸、電動車いす体験、アロマオイルを使用したハンドマッサージなどで大盛況でした。

子どもたちとの 交流・福祉教育

城陽市立富野小学校及び久御山町立佐山小学校での福祉教育をはじめ、城陽市立南城陽中学校の吹奏楽部、清仁保育園、京都市辰巳保育所との交流、城陽市立今池保育園児を招いての芋掘りや城陽市立今池小学校での車椅子介護体験学習を実施しました。



地元企業と共同で 働く障害者の交流会

星和電機株式会社と「はびねす」が共同で、「星和はびねす21」として地域で働く障害者の余暇支援活動（ボウリング大会、各種講習会など）を定期的に行っています。



地域と仕事 イノベーションフォーラム

複雑化、多様化する地域課題解決のために法人が取り組む活動を通して、「福祉×地域」の協働を学生の皆様にお伝えし、議論するフォーラムです。令和元(2019)年度は立命館大学にて開催しました。



カフェでつながる 近隣住民のコミュニティ

地域の皆様に福祉施設を身近に感じてもらえるよう、また、子育て世代のコミュニティづくりの一助となるよう、「凧」のぶちぼんとkitchen+farmでは親子パン教室や地元の緑化活動、マルシェなどを行っています。



カフェさびゅいえでは、定休日を利用しての絵本カフェや、お子様にカフェ店員の体験をしてもらう「きっずカフェ」などを開催しました。



高齢者のための 介護予防教室

近隣地域にて介護予防教室を開催し、「煌」の理学療法士による講義や、自宅でも簡単にできる体操を行いました。地域の皆様との関係性が深まるとともに、フレイル（高齢者の筋力や活動が低下する状態）予防にも繋がっています。



法人運営のカフェ（ぶちぼんとkitchen+farm、ぶらんたん、さびゅいえ）では、令和2(2020)年3月、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休校となった児童を対象に、自家農園の野菜を使用したランチボックスを販売しました。



大規模災害に 備えて

福祉避難所としての機能がある城陽エリアの彩雲館、和光エリアの多目的ホールにて大規模災害時を想定して、地域の自治会、社協、行政とともに訓練を行っています。



大学で福祉の 魅力を発信

若手職員で構成されているGAKUEN魅力発信チームメンバーが、福祉現場で働くやりがいや魅力について、大学の授業で講演しました。



未就学児のための 親子セミナー

親子で参加できる体験型セミナー「手作りおやつ教室」「親子で楽しくコンディショニング教室」を年5回実施。計13名の参加がありました。



About us

基本理念

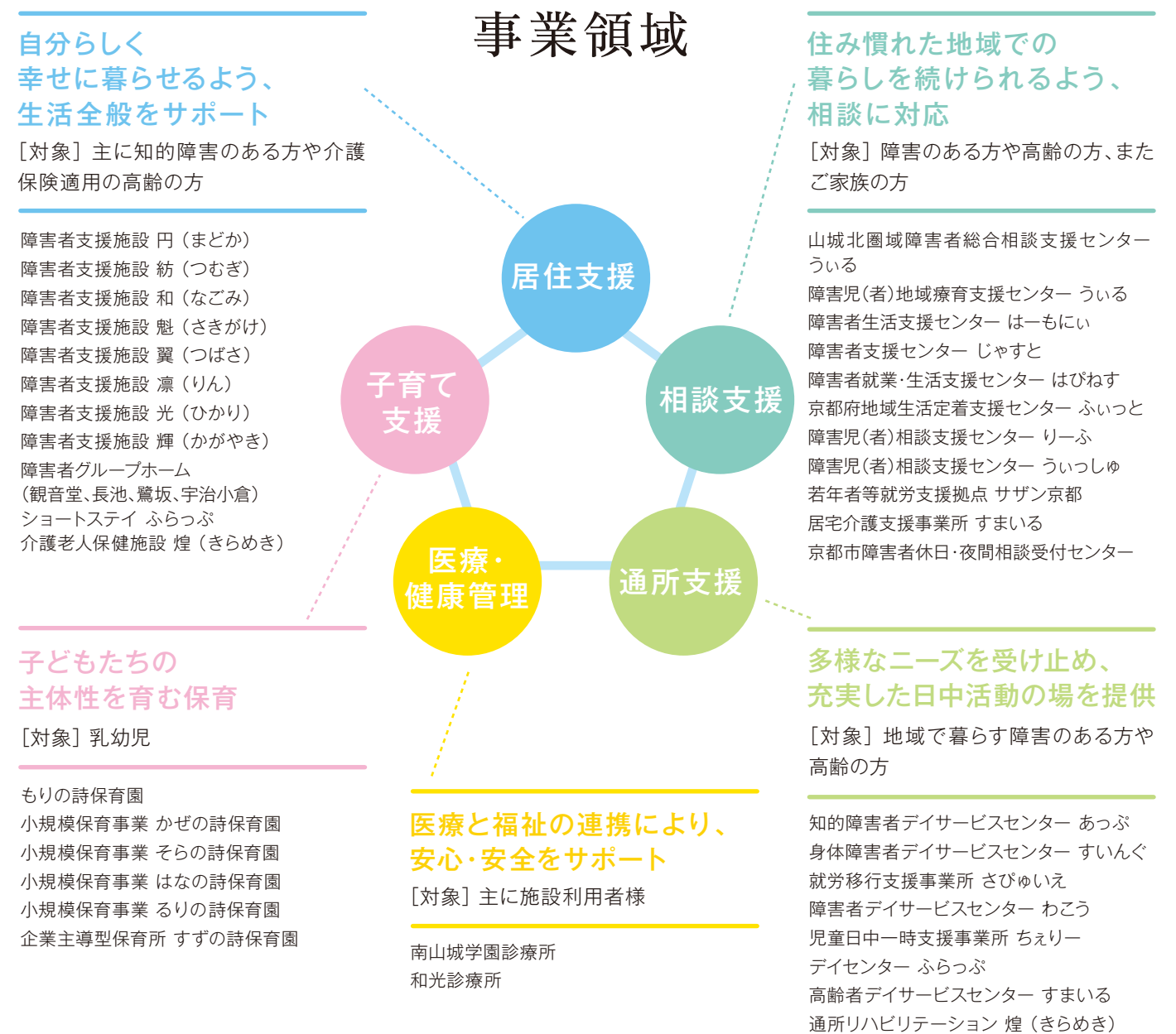
- 01 利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。**
私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。
- 02 地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。**
私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。
また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。
- 03 いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。**
一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

7つの誓い ～職員がめざすべき行動基準～

- 1 質の向上に向けた意欲と実践**
私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。
- 2 ルールと正確性の重視**
私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。
- 3 利用者理解と個別サービスの追求**
私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。
- 4 セルフィメージの向上と影響力**
私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。
- 5 職員の支援と育成**
私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。
- 6 チームワークとリーダーシップ**
私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。
- 7 専門性の向上と活用**
私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

法人概要

事業内容	・第一種・第二種社会福祉事業（障害・高齢・保育・生活困窮者） ・公益事業	経常収入	40億2,000万円〔令和元(2019)年度〕
設立	昭和40(1965)年 2月	事業所	京都府城陽市／宇治市 ／京都市伏見区・中京区・下京区 ／大阪府三島郡島本町
代表者	理事長 磯 彰格		障害31ヶ所／高齢3ヶ所／保育園6ヶ所 〔令和2(2020)年新規開設含む〕
職員数	725名〔令和2(2020)年3月31日現在〕		



中期経営計画 2020のあゆみ

2015年4月～2020年3月

この5年間、法人理念に基づき、福祉サービスの更なる向上と地域共生社会の実現に向け、幅広く事業を展開してきました。

	2015	2016	2017	2018	2019
1 障害者の地域移行				・宇治小倉ホーム開設	・城陽市内5ホームを長池ホームに統合
2 高齢障害者の居住安定		・「よしず作り」開始			・障害者支援施設 和を2施設に分割決定
3 高齢者福祉の充実		・機能訓練スペースの地域開放		・介護老人保健施設 煌を加算型に	
4 地域コミュニティの活性化	・ぷちぼんとファーム開設	・子ども食堂(城陽・醍醐)を開始		・絵本カフェ(宇治小倉)を開始	
5 福祉教育・啓発の推進	・世界自閉症啓発デーの取組開始	・富野小学校での障害理解授業開始 ・大学でのガイドヘルパー講座開講			
6 魅力ある職場づくり		・きょうと福祉人材育成 上位認証を取得	・エキスパート制度 /一般職・時間限定職開始 ・職員交流パーティー開始		・事業所内保育所開設
7 災害時の対応	・大規模災害部会を設置	・熊本地震DWAT派遣、 災害ボランティア派遣		・大阪北部地震・災害ボランティア派遣 ・西日本豪雨災害・DWAT派遣、 災害ボランティア派遣	・台風19号・災害ボランティア派遣
8 保育・子育て支援事業の展開	・小規模保育園 (かぜの詩、そらの詩、はなの詩)開設	・もりの詩保育園開設	・未就学児の親子セミナー開始		・小規模保育園(るりの詩)開設
9 生活困窮者への支援	・中間的就労(雇用型)開始		・サザン京都開設 (サポステ、生活困窮者自立支援、 ひきこもり支援)		
10 研究と実践の連係	・福祉事業局スーパーバイザー配置	・強度行動障害支援者養成研修開始			
その他重要事項	・工房 希(まれ)・望(のぞみ)完成	・本園整備完了	・社会福祉法人制度改革に伴う 定款・組織機構改定 ・法定監査の開始	・地域福祉支援センター宇治小倉開設	・地域福祉支援センター島本開設



理事長インタビュー 磯 彰 格

いそ あきただ

◀◀◀ 中期経営計画2020(2015年4月～2020年3月)の成果を振り返って

2015年2月に法人創立50周年を迎えたことを機に、ネクストビジョン2025を定め、その実行計画として5年間の「中期経営計画2020」を進めてきました。

この5年間、地域の様々なニーズにお応えすべく、幅広く事業を展開してきました。

これまで進めてきた障害者・高齢者福祉サービスについては、経験則に頼ったサービスではなく「科学的根拠に基づいた支援」を大切に、「利用者様の暮らしの質の向上」を第一に取り組んでまいりました。利用者様の健康・衛生面での配慮、不適応行動の軽減など、目に見える形で成果が出ています。

また、新たな事業展開として、保育所運営にも取り組みました。女性の就業率の上昇などによる都市部における保育ニーズ

の高まりを受け、いくつかの自治体から保育所運営を期待され、新たに参入することを決意しました。5年間で小規模保育園・企業主導型保育所を含む6箇所の保育園を開設し、地域のニーズに応えてきています。

更には、生活困窮者・ひきこもりなど就職困難者への支援にも力を注いできました。2015年から取り組んできた中間的就労の取り組みが評価され、新たに地域若者サポートステーション、生活困窮者自立支援、ひきこもり支援などの諸事業を受託運営しています。



中期経営計画2025(2020年4月～2025年3月)の策定にあたり ▶▶▶

過去5年間の成果を踏まえて、より広い観点から「地域共生社会の実現」に向けて邁進したいと考えています。「中期経営計画2025」においては、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を視野に入れ、「経営の持続性」と「地域共生社会の実現」を両立するため、既存の事業の経営基盤を更に強固なものとするとともに、新たな地域課題に積極的に取り組むこととしています。

また、老朽化した障害者施設の改修・個室化による生活環境の改善、リハビリ強化、異年齢保育の充実など、良質な福祉サービスを引き続き提供してまいります。

今後とも役職員一丸となり、「中期経営計画2025」の実行に向けて、全力を尽くして参ります。

中期経営計画2025

2020年4月～2025年3月

「中期経営計画2025」の実践を通じて、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の推進に貢献していきます。

長期ビジョン

SDGsにおける目標



南山城学園は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

創造性の発揮	1	共生のまちづくりへの参画 教育・農業・地場産業・住民組織など、幅広い関係者との繋がりをさらに強化します。また、生活困窮者や就職氷河期世代などの支援を包括した、地域共生社会の実現を目指します。	1 貧困 17 パートナリーシップ
	2	生産性の向上 ロボット・ICT技術を活用し、効果的・効率的な業務運営を行います。また、利用者様の安全確保や健康管理面での先進技術開発に、積極的に参画します。	9 イノベーション 17 パートナリーシップ
	3	研究と実践の連係 サービスの質の向上のため、産官学と連携し共同研究・発信を行い、新たな担い手の育成を図ります。また、他法人と連携し、高齢知的障害者支援に関する共同研究に参画します。	3 健康・福祉 4 教育
経営資源の有効活用	4	魅力ある職場づくり 育児や介護などライフステージに応じた雇用形態、エキスパートからスーパーバイザーへの昇格制度など、柔軟かつ職員の能力と意欲を高める人事制度を構築します。	5 ジェンダー 8 成長・雇用
	5	人材の確保と育成 学生や一般求職者から選ばれる、魅力ある法人・事業所を目指します。そのため、育成制度や、多様な働き方に応じた人事制度を確立します。	5 ジェンダー 8 成長・雇用
	6	就職氷河期世代など、幅広い就労支援ニーズへの対応 生活困窮者・障害者の枠組みを超え、カフェ、食品加工、農作業など幅広い「就労支援サービス」を提供するとともに、福祉的就労・中間就労から一般就労への移行を支援します。	1 貧困 8 成長・雇用
暮らしの質の向上	7	障害者の多様な生活ニーズ、介護ニーズに対応する「暮らしの場」の整備 障害者の高齢化に対応するため、日中プログラムの抜本的な見直しやハード面の整備を図ります。また、グループホームを含めた地域での暮らしを支える環境を整えます。	3 健康・福祉 10 平等 16 平和・公正
	8	リハビリ機能を活かした高齢者・障害者の自立支援の強化 介護老人保健施設・通所リハビリの機能を強化し、地域の高齢者ニーズに積極的に応えるとともに、障害者の自立支援にもリハビリ機能を積極的に活用します。	3 健康・福祉 16 平和・公正
	9	異年齢保育を柱とする子育て支援の充実強化 異年齢保育を中心に据えた保育の質の充実を図ります。また、法人が培ってきたノウハウを活用し、子育て支援事業を拡充するとともに、既存の相談事業との連携を強化します。	4 教育 8 成長・雇用

外部研修で地域貢献

法人主催の研修で241名が修了 (うち外部134名)

京都府内を中心に、地域の福祉人材を育成する観点から、法人職員のみならず外部の福祉職員にも対象を広げて、以下の研修を開催しています。

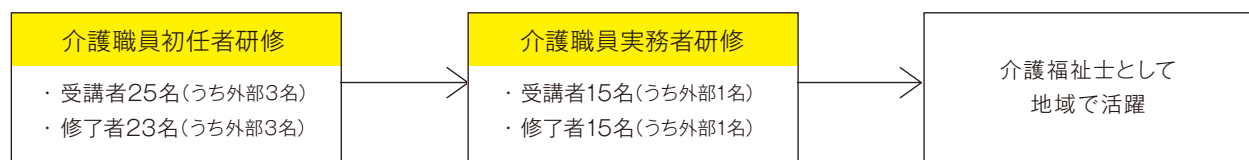


強度行動障害支援者養成研修

現在、行動障害のある人のうち、いわゆる「強度行動障害」がある人は、自傷、他害行為などにより日常生活に困難が生じているため、福祉施設の受け入れが消極的な傾向があります。一方、障害特性の理解に基づく適切な支援を行うことにより、強度行動障害が低減し、安定した日常生活を送ることができる人も多くいます。そのため、平成28(2016)年度より、京都府内の福祉現場職員を対象に、強度行動障害のある人に対し、適切な支援を行う職員の育成を目的とする強度行動障害支援者養成研修の基礎研修を開講しています。

基礎研修		修了者122名
【講義】・強度行動障害がある者の基本的理解 ・強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識	【演習】・基本的な情報収集と記録等の共有 ・行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解 ・行動障害の背景にある特性の理解	

介護福祉士



働きながらの試験勉強を支援するために、介護福祉士受験対策講座も開講しています。

ガイドヘルパー

知的・精神障害者移動支援従業者(ガイドヘルパー)養成研修課程

- 京都光華女子大学……受講者38名、修了者37名
- 大谷大学……受講者45名、修了者44名



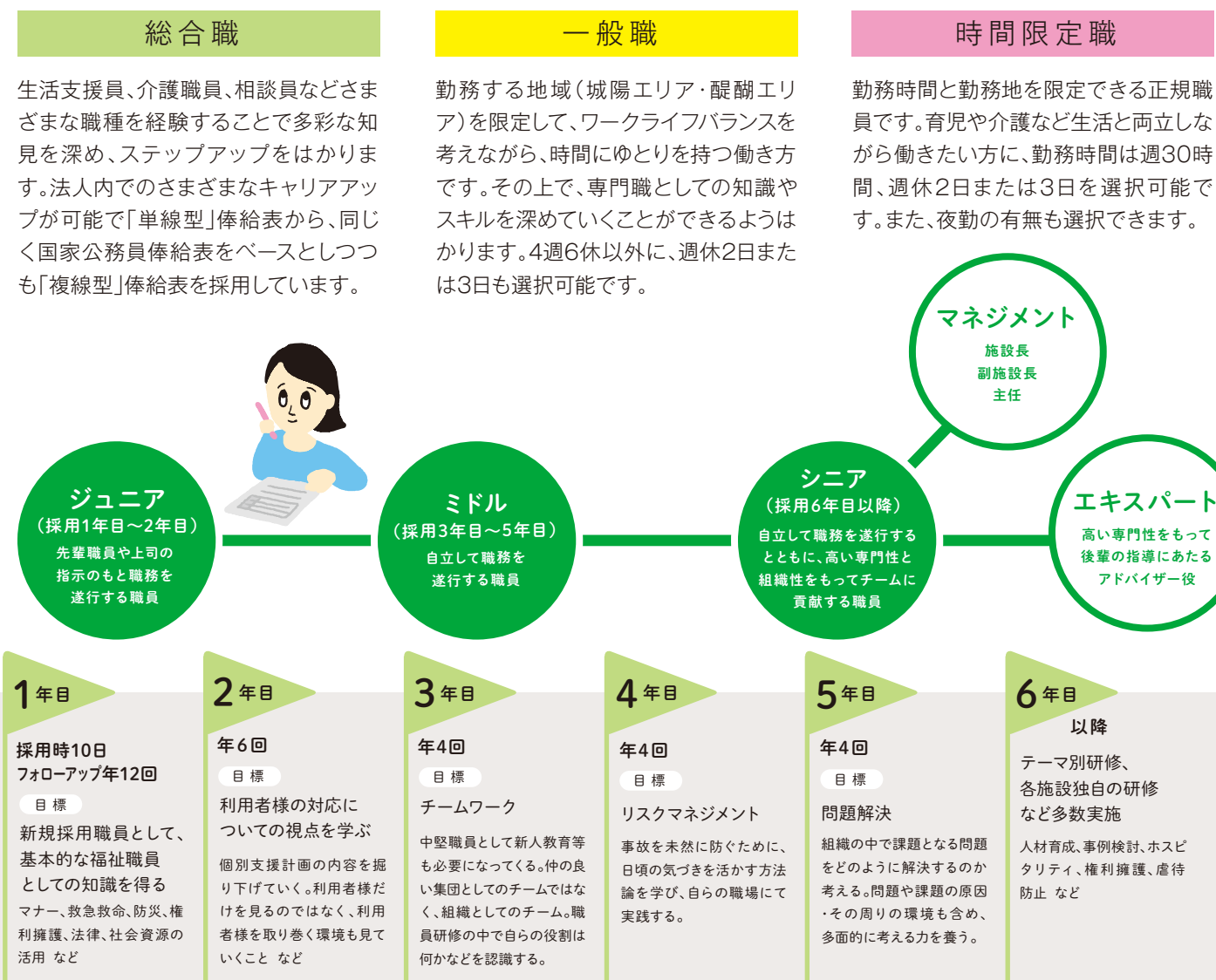
新たなインターンシップへの取り組み

令和元(2019)年度、課題達成型のインターンシップを新たに導入しました。従来は、アクティブラーニング(体験型)として、福祉の支援現場の体験に重点を置いたプログラムでした。今回は一歩進め、募集段階からテーマ(課題)を設定し、学生がインターンシップでの実践を通じて、成果を引き出し評価するプログラムとしました。その結果、学生の意欲が向上し、成果発表では学生ならではの視点から高く評価できる内容を見るに至りました。インターンシップは、法人事業を理解してもらう機会のみならず、優秀な人材獲得の機会でもあります。今後も、学生の好奇心と意欲を引き出すプログラムの提供に努めます。

多様なキャリアプランと研修制度

正規職員制度は働き方に応じて3区分に

本人の希望やライフスタイルの多様化に合わせて、働き方を選択できるように、正職員制度は「総合職」「一般職」「時間限定職」の3つの区分を設けています。



職員交流パーティー

以前は福利厚生の一環として、職員互助会を通じ、正職員のみを対象に懇親会等への補助金を支出していましたが、平成29(2017)年より「職員交流パーティー」に変更。正職員に限らず全職員を対象に10月と11月の2回開催し、約280名が事業所の垣根を越えてゲームや福引などをして交流を楽しみました。



きょうと福祉人材育成上位認証を取得しています

「きょうと福祉人材育成認証制度」は、人材の育成・定着に取り組む福祉事業所を京都府が認証し、学生等に福祉職場の情報を提供することを目的としています。平成25(2013)年度に創設され、当法人を含め、5つの事業所が初の認証事業者選ばれました。現在、276の事業所が認証されています。平成29(2017)年には、さらに上位の取り組みを実践し、福祉業界を牽引する事業所が認定される「上位認証」を取得しました。



リスクマネジメント

本部リスクマネジメント委員会の取り組み

事故に関するリスク対策部会と、大規模災害部会で、対策を検討し、研修や訓練などを行っています。

事故ゼロを目指して

— 事故に関するリスク対策部会

事故対策部会では、小単位のワーキンググループ制を導入し、部門別に活動しています。

① 薬セット	薬セット業務の標準化、医務担当等の業務軽減、セットミスの減少のため、平成30(2018)年度より業者による施設内での薬セットを導入しています。城陽エリアの入所施設はすべて導入完了し、業務効率化の効果が出ています。
② 投薬チェック	各事業所の投薬業務をチェックし、仕組みを構築し標準化を進めました。チェックシートを集約し、指摘事項を各事業所にフィードバックしました。
③ リスクマネジメント研修	安全運転講習会：同内容で令和元(2019)年9月に4回開催し、109名が受講しました。次年度も継続し、受講者数の増加を図ります。 リスクマネージャー養成研修：令和元(2019)年度をもって施設長クラスは全員受講を終え、リスク管理能力の底上げに繋がりました。
④ マニュアル検討	法人マニュアル・ガイドラインに基づき、既存の共通マニュアルの整理や点検を行いました。次年度は、改訂を要する法人マニュアル等の更新作業を進めるとともに、管理方法について検討します。 また、平成30(2018)年度に作成した事故報告書記入手引きの車両事故報告書版を作成しました。対応策を整理し、利用者様の安心・安全に繋がります。



もしもの備えを万全に

— 大規模災害部会・・・福祉避難所設置訓練、図上訓練を実施

令和元(2019)年11月17日(日)、地元自治会と連携した福祉避難所設置訓練を実施しました。これは富野自治会が主催する総合防災訓練の一環であり、地元「長池自治会」「友が丘自治会」から、福祉避難所の対象者2世帯が彩雲館に避難し、担当職員が聴き取りを行うなど、マニュアルに沿った訓練を行いました。

また、令和2(2020)年2月14日(金)には、法人職員を対象として、大規模災害時どのような対応が必要となるのかを検討した図上訓練を実施しました。
佛教大学の後藤至功先生指導のもと、深夜に大規模地震が発生したことを想定し、醍醐エリアの施設での対応方法等について、平面図上でのシミュレーションを3班に分かれて行いました。

大規模災害は、いつ起こるか予測できないため、日頃からの備えが大切です。利用者様の安心・安全を守るため、このような訓練を積み重ね、いざという時の備えを万全にしていきます。



サービス向上の取り組み

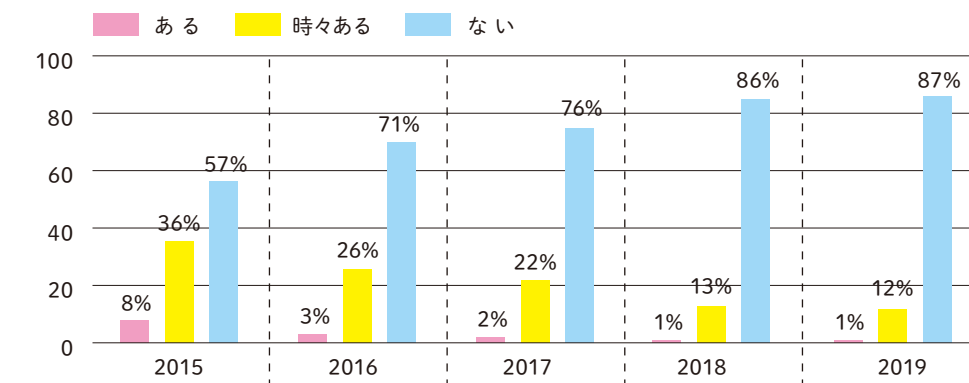
サービス向上プロジェクト

各事業所が提供するサービスの質や業務内容等を他の施設職員が確認する機関として、虐待防止委員会の中にサービス向上プロジェクトを設け、客観的かつ専門的な立場から評価します。管理職5名、事務局1名、オブザーバーの事務局長で構成され、2ヶ月に1回プロジェクト会議を設けています。

権利擁護セルフチェックを実施

令和元(2019)年12月、利用者様の権利擁護のための職員セルフチェックを職員469名に実施しました。その調査結果を検証し、職員の権利意識を明らかにするとともに、課題解決に関する方策を探りました。

【Q1】利用者様を呼び捨てや「ニックネーム」、「ちゃん」付けで呼んでしまうことがある。



呼称については年々改善の傾向にあります。私たち福祉職には、利用者様の尊厳を尊重し、対等な関係性を築いていくことが求められます。利用者様の呼称が「さん」付けであることは、当法人の絶対的方針であり、その方向性が変節することは決してありません。したがって、呼称は100%の遵守が達成されるまで、その徹底に努めます。

実地調査

令和元(2019)年12月、障害者支援施設 魁にて実地調査を実施しました。他事業所管理職、法人監事等8名を調査員とし、客観的かつ専門的な立場から、権利擁護の観点に基づき訪問調査を行いました。評価結果はアドバイス・レポートとしてまとめ、フィードバックしました。

見学者アンケートを実施

利用者様へのサービスの質をさらに向上させるため、法人見学者向けのアンケートを令和2(2020)年2～3月に実施し、12名の見学者に回答していただきました。

質問内容(法人全体/施設別)

- ・ 職員の言葉遣いは適切であるか
- ・ 敷地内の清掃状況は適切であるか
- ・ 職員の身だしなみは適切であるか
- ・ 施設の臭いが気になるか など

法人全体では、すべての項目において「適切である」「やや適切である」との回答をいただきました。

施設別では、臭いが「やや気になる」との回答が1件ありました。

今後もアンケートを継続して実施することで、法人のサービスを第三者の立場から評価いただき、更なるサービスの質の向上に繋がっていきます。



利用者様も参加して 支援方針を決定

利用者様の意向に沿ったサービス提供ができるよう、支援方針を決定する際には利用者様に参加していただき、内容をわかりやすく説明する工夫をしました。また、利用者様の強み(ストロングポイント)に着目できるよう、アセスメント書式の見直しを行いました。その結果、支援計画の内容を、利用者様の立場に立ったものへと改善することができました。



居室環境の整理

各担当職員が利用者様の居室・タンス整理を行い、サービス向上委員会メンバーを中心に、しっかり整理ができているかのチェックを行うようにしました。

定期的にチェックすることで、古い物や汚れのある物を利用者様が身に付けることがなくなりました。

という展～創作活動を通し、思いを伝える～

円をはじめ、南山城学園の利用者様が、粘土や絵画などの創作活動を通して思いを形にした作品を地域の方に見ていただく機会として、毎年「という展」を開催しています。

令和元(2019)年は、11月に「宇治yorin」、12月に「文化パルク城陽」にて、計2回開催し、多くの方にご来場いただきました。



次年度に向けて

令和元(2019)年度に実施した利用者様の居室環境整備とともに、施設の共用部の臭いの改善や美化に取り組めます。また、第三者評価を受診して全体的な業務の見直し、改善を進めます。

事業内容：生活介護60名、施設入所60名、短期入所4名		
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市富野狼谷(本園)	施設長：松井 一真

夜間帯の体制を強化して 利用者様の高齢化・重度化に対応

利用者様の高齢化、重度化への対応として、職員変則勤務体制の見直しを実施しました。特に夜間帯の体制を強化することで、利用者様の支援を手厚くすることができました。

また、強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)を、夜勤・遅出勤務に従事する全職員が受講したことにより、さらに手厚い支援を展開することが可能となりました。

セイダ式口腔ケア技法を展開しました

平成30(2018)年度から取り入れている口腔ケアをさらに展開していくための仕組み作りを進めました。外部講師による研修会を全職員が受講したことにより、手技の標準化を図ることができました。さらに20名の職員が認定資格を習得し、さらなる技術の向上を図ることができました。日常的な取り組みに向けて見直しを図ることと、課題解消へ向け前進することができました。



次年度に向けて

利用者様の高齢化、重度化への対応を強化するため、現在の2寮(様寮、様寮)を施設分割し、体制強化をさらに推し進めます。特に多床室・バリアフリー化への対応着手が求められる様寮の改修プランを検討していきます。



事業内容：生活介護79名、施設入所79名、短期入所4名		
利用者層：知的障害のある高齢者	所在地：城陽市富野狼谷(本園)	施設長：山口 嘉信

事業内容:生活介護54名、就労継続A型11名、就労継続B型15名、施設入所60名、短期入所1名	
利用者層:就労を希望する障害者	所在地:城陽市富野狼谷(本園)
施設長:下前 拓也	

事業内容：生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名	
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市観音堂甲畑
施設長：西田 武志（[知的障害者デイサービスセンターあっぱ] センター長 兼務）	



個性を咲かせる 自主製品（ハーバリウム） の開発

利用者様にとって日中活動が生活の軸として充実したものになって欲しいとの思いから、また利用者様の「仕事がしたい」というニーズに答えるため、月曜～金曜の午前・午後に日中活動がある環境を作りました。



「毎日きれいなトイレ」を目指し、生活環境の向上へ

地域の中にある施設ということもあり、地域の方の出入りもある中で、やはりニオイには気を付けたいところです。毎日きれいなトイレを目指して外部のトイレ診断士に依頼し、汚れの原因や掃除方法を見直し、定期的にアフターフォローも入れてもらい、ニオイの改善に努めました。さらに利用者様の身だしなみ、居室環境といった周辺環境にも統一したマニュアルを作成し、新規採用職員でも確実にできるよう取り組みました。



小学校で福祉教育を行い、 障害者理解を促進

令和元(2019)年度から、城陽市立富野小学校での福祉教育を任せてもらうこととなりました。小学校へ出向き、障害に関する授業を行いました。児童一人ひとりに、理解度を確認するためのアンケートに記入してもらいました。アンケート結果から、それぞれがしっかり障害と向き合い考える機会となったことが伝わり、非常にやりがいを感じることができました。法人の中でもより小学校に近い施設として、今後も理解促進に繋がっていかれると思います。

次年度に向けて

現在、主にカフェに納品している野菜を作っているファーム(畑作業)班について、法人のスケールメリットを活かし、効率化や作業能力を図るため他施設と共同化を行います。そのために環境を整備し、安定した共同作業体制を構築します。

事業内容：生活介護49名、施設入所40名、短期入所2名		
利用者層：重度知的障害者	所在地：城陽市富野東田部	施設長：小関 徹史

iPadでPECSを使い、より豊かな暮らしへ

光ではかねてから、PECS(Picture Exchange Communication System、絵カード交換式コミュニケーションシステム)の実践に取り組んでおり、現在では約7割の利用者様が活用しています。とりわけ近年では、PECSのアプリをiPad上で操作し、利用者様ご自身で作成した写真カードを使って、自発的なコミュニケーションをとってもらおう試みに力を入れてきました。「写真カード」＝「言葉」を自らで作り出すことで、より正確に、そしてタイムリーに自分の意思を伝えることが可能となります。PECSを通じて、支援をする側、受ける側という関係性を越えた、暮らしの広がりと豊かさを追求していきたいと思います。



ソーシャルワークの文脈で 日々の実践を捉えなおす

施設現場における利用者様との営みを、ソーシャルワークの「価値」と「倫理」にどのように位置づけるのか。今一度、利用者様にかかわり、寄り添うことの意味を問い直すべく、同志社大学から空閑 浩人教授をお招きし、計5回の連続講座を開催しました。光からは延べ40名、法人全体では200名近い職員が参加しました。



次年度に向けて

PECSによる意思決定支援の一層の向上を図るとともに、中高年層が中心となりつつある利用者様の「身体機能の維持・向上」に向けた、日常生活における身体活動量の増進に取り組みます。

事業内容：生活介護42名、施設入所42名、短期入所3名	
利用者層：重度知的障害者	所在地：京都市伏見区日野(醍醐)
施設長：奥村 一貴(障害事業局長＜醍醐＞＜島本＞兼務)	



行動・促進を基本とした「積極的」人権擁護

令和元(2019)年度は、人権擁護をテーマとして、外部講師による集合研修や、意思決定支援について協議するグループワーク等に取り組みました。

施設現場における意思決定支援の成功・失敗実例を話し合う中で、「意思が形成されていく過程の支援が極めて重要」「表出された意思に気付く支援者であることが大切」等のキーワードが浮かび上がりました。

今後も、意思決定支援による「積極的」人権擁護に継続して取り組んでいきます。



清潔な住環境の維持

令和元(2019)年度は、生活臭を軽減する各種取り組みを展開しました。

臭いチェックシートに基づき、他事業所管理職による抜き打ち調査を年3回実施しました。その結果、回を追うごとに、館内の様々な箇所で臭いの状況が改善していることが、データから見て取れました。

来客者への聞き取りや第三者評価調査者の講評からも、「臭いは気にならなかった」との評価を得ることができました。



園児との定期交流を通し、障害理解を育む

京都市辰巳保育所と定期交流会を実施しました。

利用者様と園児との心温まる触れ合いは、今後私たちが目指すべき共生社会の在り方を教えてくれているようにも感じられました。

次年度に向けて

令和元(2019)年度に受診した第三者評価では、「意思形成支援」にまつわる問題など、事業所が抱える課題が明らかとなりました。令和2(2020)年度は改善計画を策定し、「利用者本位」の視点から軸を外すことなく、課題改善に向けた施設運営に力を注ぎたいと思います。

事業内容:生活介護58名、施設入所58名、短期入所7名、児童日中一時支援事業所ちゅーりー	
利用者層:知的障害のある高齢者、知的障害児	所在地:京都市伏見区日野(醍醐)
施設長:村地 正浩	

グループホーム運営体制の再編

令和元(2019)年度、既存のホームのうち5ホームの老朽化に伴い、新ホームへの再編・移転を行いました。

業務マニュアル等の支援体制運用方法の策定、職員体制の整備、行動規範の見直し、備品管理システムの構築等、従来の運用方法を精査し、修正を加えながら、新体制における全システムを作り上げることができました。

利用者様の自治会を発足し、より充実した暮らしに

日中活動や余暇を見直し、充実した暮らしを提供するため、利用者様の自治会を令和元(2019)年6月に発足、年10回開催しました。余暇に関するご意見ご希望を集約し、利用者様のQOLやサービスの向上を図ることができました。また、自治会規約やホームでの生活におけるルールを制定・確認し、利用者様自身で安心、安全なホームづくりをしていくという自覚を促すことができました。



職員が研修を通じて、自らの目標設定などを実施

施設内研修(①法人理念・7つの誓い、②権利擁護・アンガーマネジメント、③リスクマネジメント、④感染症・防災対策)を全職員向けに実施し、利用者様の権利や支援者としての心構え等、全体で共有することができました。

また、職員個人の目標設定、前期・後期評価を実施しました。

救命救急研修は次年度に持ち越しとなりました。

次年度に向けて

全ての利用者様の安心、安全な暮らしのため、事故防止や生活の質の向上、職員の支援技術・資質の向上を一層目指します。また、全ての利用者様のライフプランにおいて、中長期計画を策定し、見通しをもった支援を行います。

事業内容：共同生活援助 42名		
利用者層：知的障害者	所在地：城陽市内3ヶ所	室長：大矢 真弓



地域の高齢者との関係づくりを強化

共生共助の地域づくりへの貢献のため、毎週土曜、機能訓練スペースを近隣の高齢者の方に無料で開放しています。毎回15名前後の方に参加いただいております。地域の皆様との関係性が深まるとともに、フレイル（高齢者の筋力や活動が低下する状態）予防にも繋がっています。

また令和元（2019）年度は、地域のグランドゴルフにも参加させていただき、さらに関係性を深めるとともに、毎年継続して開催している近隣集会所での出張介護教室を通じ、地域の皆様へ介護に関するノウハウを伝える取り組みを行いました。



ユニットの機能分化で様々なニーズに対応

在宅復帰を希望される方のため、1ユニットを在宅復帰強化ユニットとして機能分化すべく体制を整備しています。専用の日課及びリハビリプログラム案を策定し、地域高齢者のニーズに的確に応えていけるよう進めています。



権利擁護の強化

施設内不適切ケアをなくすため、全職員を対象として、権利擁護に関する研修を実施しました（人権・プライバシー保護・身体拘束等について）。常に人権意識を持って業務にあたるよう、今後も継続して実施していきます。

次年度に向けて

前年度の取り組みを継続しながら、さらに煌の在宅復帰機能及び在宅生活支援機能を強化していきます。また、煌のリハビリ機能を法人内障害者施設に提供できるよう、体制整備を進めていきます。

事業内容：介護老人保健施設100名、通所リハビリ30名		
利用者層：高齢者	所在地：城陽市長池五社ヶ谷	事業統括：吉岡 弘樹

利用者様の自治会活動により、意向や希望に沿ったサービスへ

平成30（2018）年度に組織した利用者様の自治会「あつぷの会」の活動を継続実施しました。施設での行事や食事メニューなど、施設を利用する中で選択可能な内容について話し合う機会を定期的に設けました。意向を定期的に確認することで、一層利用者様の希望に沿ったサービス内容を検討できるようになりました。



圏域における利用ニーズの把握と事業所の役割強化

地域にお住まいの障害のある方の居場所としての役割をより強めるため、圏域の相談事業所や支援学校との連携を強化しました。年間を通して、新たに利用を開始した方も含めて多くの方に利用してもらうことができました。様々な利用ニーズを想定し、画一的な作業活動に留まらず、できるだけ多くの活動内容を提案することにより、多様化する利用ニーズに応えることができました。



次年度に向けて

利用者様の意向を把握しながら、事業所の役割を改めて見直しました。今後は、さらに活動内容の充実を図るとともに、支援する職員の質の向上を目指した活動を継続的に実施していきます。

事業内容：生活介護20名	
利用者層：知的障害者	所在地：城陽市観音堂甲畑
センター長：西田 武志（[障害者支援施設 翼]施設長 兼務）	



近隣の保育園と交流

高齢者デイサービスセンターすまいるでは、城陽市立今池保育園との相互交流に新たに取り組めました。園児を招いて芋掘りやプランターでの野菜栽培、また保育園のクリスマス会に参加させてもらうなどの交流を、年8回実施しました。園児との触れ合いに利用者様も喜び、元気をもらっている様子でした。次年度はさらに交流を深めていきたいと思ひます。



第三者評価39項目のうちA評価38項目

令和2(2020)年2月、高齢者デイサービスセンターすまいるが第三者評価を受診した結果、A評価38項目、B評価1項目でした。B評価は、前回の受診が5年前であり「3年ごとの第三者評価受診ができていない」ことでしたが、サービス内容については高評価を受けました。引き続き、さらなるサービスの質の向上・改善に取り組んでいきます。



利用者様ご家族との意見交換

身体障害者デイサービスセンターすいんぐでは、サービスの質の向上に向け、利用者様のご家族から意見を伺う機会として、令和元(2019)年11月に家族見学会を開催しました。施設内や活動の様子の見学、理学療法士からご家庭でのリハビリや介助に関する助言などを行うとともに、ご家族との意見交換を行いました。

次年度に向けて

住み慣れた地域での暮らしの継続に向け、高齢者デイサービスでは「生活機能訓練」「認知症ケア」の充実を図り、障害者デイサービスでは、在宅復帰を支援する「機能訓練強化型」のサービス提供を目指します。また、利用者様の意見を聞く機会として利用者満足度アンケートを実施し、さらなるサービスの質の向上を図ります。

事業内容：身体障害者デイサービスセンターすいんぐ 生活介護20名 高齢者デイサービスセンターすまいる 通所介護25名	
利用者層：[すいんぐ] 身体障害者 [すまいる] 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)、40歳以上65歳未満の特定疾病罹患患者(第2号被保険者)	
所在地：城陽市枇杷庄	センター長：山代 浩史(障害事業局長<城陽><宇治>兼務)

近隣の小学校で 車椅子介護体験学習を実施

令和元(2019)年12月、近隣の城陽市立今池小学校の障害者理解学習の一環として、1年生と6年生を対象とした車椅子介護体験学習を、併設のデイサービスセンターと共同で実施しました。1年生には主に車椅子の使い方について、6年生には困っている人を見かけたときの声掛けの仕方や介助方法について学んでもらいました。



支援学校のPTA進路学習会で講演

京都府立八幡支援学校から、ういるに依頼があり、令和元(2019)年7月、「卒業後の進路と生活～福祉サービスや地域資源の活用～」をテーマとした学習会を開催しました。福祉サービスや相談業務について保護者様への説明を行いました。



地域の障害理解に向けた セミナーを開催

彩雲祭にて「発達障害の理解を広めるセミナー」を開催し、地域住民や支援者、教員など50名の参加がありました。講師の京都府立こども発達支援センター精神科医長 水原祐起氏より、医師の視点から、子どもの発達と社会的繋がり的重要性について分かりやすくお話いただきました。

次年度に向けて

障害相談事業の多様化・増加するニーズに対応するため、相談業務のチーム支援体制の強化を進めます。また、委託事業以外の収支安定に向け、業務効率化を図り、計画相談件数の増加及び法人全体を視野に入れた相談支援員の育成や研修体系化に取り組めます。

事業内容：障害児(者)地域療育支援センターういる、山城北園域障害者総合相談支援センターういる、 障害者生活支援センターはーもにい、居宅介護支援事業所すまいる
利用者層：[ういる] 障害児(者) [はーもにい] 障害者 [すまいる] 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)、40歳以上65歳未満の特定疾病罹患患者(第2号被保険者)
所在地：城陽市枇杷庄
センター長：山代 浩史(障害事業局長<城陽><宇治>兼務)



ニーズを把握し、 充実した日中活動を目指す

日課の全体的な見直しや業務の効率化を図り、新たな時間の捻出を行いました。また、特別支援学校など関係機関へ定期的に訪問して地域のニーズを把握し、日中活動を再検討し充実を図りました。その結果、令和元(2019)年度の平均稼働率は90.4%と、安定した運営を行うことができました。

今後も、地域のニーズを参考に、より多くの方に利用していただけるよう取り組んでいきます。



子ども食堂を多世代が集う場に

子ども食堂「ダイニング あんさんぶる わこう」では、子ども達や入所利用者様に加え、地域の高齢者の方にも参加していただき、多世代が集う場を創造しました。今後は、多世代の方々の交流がより深まるような取り組みを検討していきます。また、職員ボランティアをより多く募るための取り組みとして、新たに動画の作成にも着手しました。令和2(2020)年度の完成に向け、実行委員会で取り組んでいます。



次年度に向けて

引き続き関係機関への働きかけや連携の強化を図ります。そして、地域のニーズ把握に一層努め、今後の事業所運営に反映させていきます。また、令和元(2019)年度に受診した第三者評価の結果を踏まえ、さらなるサービスの質の向上を図り、選んでいただける事業所作りを目指していきます。

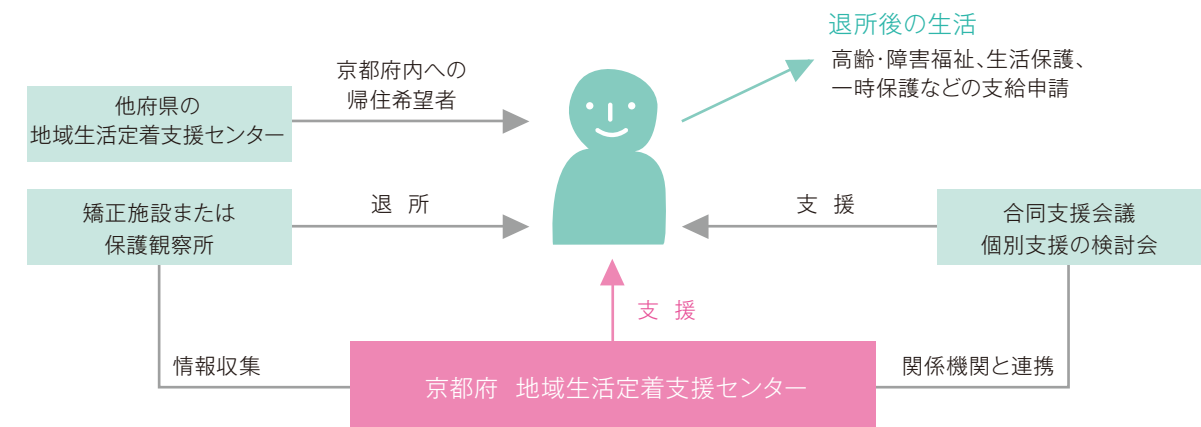
事業内容：障害者デイサービスセンターわこう 生活介護35名		
利用者層：すべての障害者	所在地：京都市伏見区日野	センター長：小林 稔

関係機関とのネットワークを強化

ふいっと主催の研修を2回(10月・12月)、更生保護施設と共催での研修を2回(8月・11月)実施しました。福祉・司法・行政など、他職種の関係機関より参加者がありました。矯正施設出所者の地域生活を支えるためには、他職種との連携が必要不可欠です。令和元(2019)年度は、研修の講師依頼を通じ、いくつかの大学とも関わりができました。今後も新たなネットワークの構築に向けて取り組みます。



京都府地域生活定着支援センターふいっとの支援の流れ



- ①コーディネート業務(退所前から) 身元引受人の不在などで自立困難な高齢者・障害者に、ニーズ把握、受入先のあっせん、各種申請を行う。
- ②フォローアップ業務(退所後) 退所後、福祉施設などを利用している方を対象に、面談、施設側への助言などを行う。
- ③相談支援業務(退所後) 「懲役または禁錮刑の執行」「保護処分」を受けて矯正施設を退所した高齢者・障害者に助言や必要な支援を行う。

次年度に向けて

利用者様の地域生活を支えるためには、福祉だけではなく、他職種との連携が必要不可欠です。「顔の見える関係作り」を目指し、様々な関係機関との交流を深めていきます。また、矯正施設出所者の現状や支援のネットワークを広げていくため、引き続き研修・啓発活動を積極的に進めます。

事業内容：障害児(者)相談支援センターりーふ、京都府地域生活定着支援センターふいっと	
利用者層：[りーふ]すべての障害者 [ふいっと]触法障害・高齢者	
所在地：京都市伏見区日野	センター長：小林 稔



法人として初めて大阪府に 施設をオープンしました

平成31(2019)年4月、大阪府島本町に新しく「地域福祉支援センター島本」を開設しました。地域拠点事業として、通所事業(生活介護30名、就労継続支援B型15名の定員)と短期入所事業、障害児者相談事業を行っています。



- 通所事業:「デイセンターふらっぶ」の生活介護は、生活場面での支援や創作的活動、生産活動の提供を行い、就労継続支援B型は、一般就労の難しい障害者の方へ作業場面の提供を行っています。
- 短期入所事業:「ショートステイふらっぶ」では、在宅生活の中で、ご家族が何らかの理由により一時的に介護できなくなった際、短期入所していただき、日常の支援を行います。
- 相談事業:「障害児(者)相談支援センターういっしゅ」は、在宅で暮らす障害のある方やご家族からの相談に応じ、情報提供や助言を行っています。また、障害福祉サービスをご利用の方に対し、サービス等利用計画の作成や定期的な見直しなどの相談支援を行います。

食パン専門のパン工房が地域で好評です!



令和元(2019)年10月、就労継続支援B型の作業のひとつとして、センター1階に、食パン専門のパン工房を開設しました。月曜日から金曜日まで営業し、地域の皆様にご利用いただいています。地域のイベントにも参加し、ご好評いただきました。

現在は7名の利用者様がローテーションで工房に入り、製パン準備やパン生地成型、後片付けなどを頑張っています。また、ラスクの製造もほとんどの工程に入り、手腕を発揮しています。

今後は、食パンを安定的に販売し、利用者様の作業工賃アップに繋がることを目指します。

次年度に向けて

就労継続支援B型の作業工賃のアップを目指し、生産性の向上、販路拡大を図ります。

また、地域貢献のひとつとして、子ども食堂の運営開始も目指します。地域との繋がりを大切にし、信頼関係を築いていけるようサービスの提供を実施します。

事業内容: デイセンターふらっぶ30名、就労継続支援B型15名、ショートステイふらっぶ1日10名、障害児(者)相談支援センターういっしゅ		
利用者層: すべての障害者	所在地: 大阪府三島郡島本町	センター長: 赤塚 信隆

企業就職に繋げることができました

就労移行支援事業の新規利用に繋げることが厳しい状況のもと、令和元(2019)年度は利用者様3名からのスタートとなりました。6名の支援学校生を含めた実習生13名を受け入れ、さらに3名が新規利用に繋がりました。就労支援ノウハウに関する施設内職員研修を実施するとともに、企業実習は3件実施しました。その中で1名が令和元(2019)年12月に病院の給食部門に就職することができました。



カフェ定休日を活用した 親子の絵本カフェと、 新たに夏祭りを実施

就労移行支援事業のカフェの定休日を活用し、2ヶ月に1回の頻度で親子の絵本カフェ(親子でできるワークショップと絵本の読み聞かせ)を実施しました。加えて、宇治市内の新たなイベントのひとつになればと、センター宇治小倉の敷地にて夏祭り(さびゆまつり)を開催しました。地域の子どもから通りすがりの方まで含め約100名の参加となり、初回でしたが盛況に実施することができました。

次年度に向けて

令和2(2020)年6月、開所から3年目を迎えます。グループホームの入居者の定員は充足しましたが、就労移行支援事業や体験グループホーム及びショートステイの利用稼働率が低いため、新規利用に繋げる取り組みを実施します。また、地域生活支援拠点事業について行政等と話し合い、地域のニーズに積極的に取り組み、より地域から必要とされる事業所となることを目指します。

事業内容: 宇治小倉ホーム(共同生活援助)18名(うち1床は体験利用専用)、短期入所2名、就労移行支援事業所さびゆいえ20名、障害者支援センターじゃすと(計画相談)	
利用者層: 知的障害者	所在地: 宇治市宇治蔭山
センター長: 日置 貞義([障害者就業・生活支援センターはびねす])[若年者等就労支援拠点サザン京都]センター長 兼務)	



ネットワークとチームワークで目標を達成

はびねすでは毎年、就職や職場実習、相談件数の年間目標を掲げ取り組んでいます。令和元(2019)年度は目標値を概ね100%達成することができました。日頃からのハローワークや地域企業との強い繋がり、また相談員のチームワークや努力の成果と言えます。

2019年度 はびねす 実績

	目標値	2019年度実績
新規登録者	100名	116名
相談件数	8,200件	7,083件
就職件数	50件	49件
職場実習件数	40件	42件

はびねす・サザン京都が協同で支援する仕組みづくり

令和元(2019)年度より、毎月定例でサザン京都との連携会議を設定しました。はびねすの対象者は障害のある方、サザン京都は若年者・ひきこもり・生活困窮者等ではありますが、お互いがリンクする対象者が存在するため、連携会議において協同支援し、互いの強みを活かすことができました。



星和はびねす21～働く障害者の余暇支援～



平成17(2005)年、地元企業である星和電機株式会社の障害者雇用をきっかけに、就労している障害のある方への余暇支援のため、はびねすと共同の「星和はびねす21」を発足しました。毎年、様々な取り組みを行い、多くの方にご参加いただいています。

令和元(2019)年度は、毎年恒例のボウリング大会に加え、京都府警協力のもと、交通安全講習会を開催しました。

この取り組みを通じ、企業と福祉との協力、共生の形が、地域の皆様や多くの企業に広まっていくことを願っています。

次年度に向けて

令和元(2019)年度より生活困窮者支援の加配を受けているため、今後、サザン京都との連携をさらに強化し、より多くの利用者様のフォローができるよう尽力します。

事業内容:相談支援	
利用者層:就労を希望する身体・知的・精神・発達障害者および難病疾患患者	所在地:宇治市宇治蔭山
センター長:日置 貞義([地域福祉支援センター宇治小倉])[若年者等就労支援拠点サザン京都]センター長兼務)	

事業開始から3年、多くの方にご利用いただいています

サザン京都は、①若年無業者層の職業的自立を目指すための就労支援（地域若者サポートステーション京都南）、②生活困窮者層が就労へ向かうための支援（生活困窮者等就労準備支援事業）、③引きこもりの方の社会的自立支援（引きこもり訪問応援「チーム絆」山城南相談室）、④中間的就労支援（京都府認定就労訓練事業）を行っています。

地域若者サポートステーション事業では、ハローワークや各種関係機関に働きかけ、新規登録者数184名、就職者数126名と、目標値を大きく上回りました。事業開始から3年が経過し、年々多くの方に利用していただけるようになってきています。

2019年度 サザン京都 実績

	目標値	2019年度実績
新規サポステ登録者	140名	184名
相談件数	サポステ	1,500件
	就労準備	800件
	ひきこもり	1,200件
就職件数	84件	126件

「夜カフェ」オープンしました

就職活動の情報交換、ひきこもり状態の方の居場所、就労中の方の交流の場を提供するため、令和元(2019)年8月、「夜カフェ」をオープンしました。毎月第1金曜日の17:00～19:00の時間限定で料金は無料、15歳から49歳までの方ならどなたでも参加していただけます（予約制）。働くことに不安のある方が先輩からアドバイスをもらったり、一人で静かに本を読んだり、カードゲームで盛り上がりったり、思い思いに過ごせる交流スペースの役割を果たしています。「雑談力」を身に付ける場としても人気があります。



次年度に向けて

サザン京都の若者サポートステーション(サポステ)が令和2(2020)度からサポステ・プラスへ名称変更し、支援対象者に就職氷河期世代が加わります(対象年齢が49歳まで引上げ)。令和元(2019)年度より生活困窮者支援の加配を受けているはびねすと連携し、一人ひとりに合ったサポートを展開します。

事業内容:相談支援	
利用者層:39歳以下の引きこもりや生活困窮者	所在地:城陽市寺田
センター長:日置 貞義〔地域福祉支援センター宇治小倉〕〔障害者就業・生活支援センターはびねす〕センター長 兼務)	





保育園



保育園

もりの詩保育園

家庭的な温もりのある保育を目指して運営しています。

異年齢保育を推進しています

同じ年齢の子ども達だけで過ごすのではなく、生活面においては、異年齢で様々な造形や身体を使った遊びなどのプログラムを実施しています。

年齢の枠を越えて、共に学び、共に遊ぶ中で、年下をいたわったり、年上の行動をまねたりして、人間関係の基礎を作るという狙いがあります。



警察・消防署との訓練など 事故防止対策を徹底しています

園児の事故を防止するため、保育内容の点検やチェックリストによる事故防止の徹底を図りました。

また、中京警察署の協力のもと、不審者侵入訓練を行いました。不審者対応時の言葉掛けの具体的なポイントやサスマタの扱い方、110番通報の方法など、不審者侵入時の対応を見直す良い機会となりました。

令和元(2019)年6月にはプール事故及び他の事故防止に関するリスクマネジメント研修を行いました。12月には、日本赤十字社京都府支部の協力のもと、保育士全体を対象とした救命救急講習を行いました。今後も、散歩時における事故防止対策や災害時における体制について見直しを図ります。



次年度に向けて

異年齢保育の推進や幼保連携認定こども園の実施を視野に入れた体制及び環境を整備するとともに、既存事業の基盤強化に取り組めます。

事業内容：もりの詩保育園60名	
利用者層：乳児・幼児	所在地：京都市中京区
統括園長：山崎 里美	

大阪府島本町に小規模保育園を開園しました

事業開始から6年目を迎え、安定した運営を行うことができます。令和元(2019)年5月には大阪府三島郡島本町にて19名定員の小規模保育園「るりの詩保育園」を開園しました。保育内容の充実を一層図るとともに、保護者様や地域の皆様の期待に応じた事業展開を行います。



地域の中にある保育園として、 地域交流をしています

地域にある平安女学院高等学校の生徒の皆様と、歌をうたったりダンスで体を動かしたりと、楽しい時間を過ごしました。勤労感謝の日には、下京警察署と元両替町交番へプレゼントを渡しに行きました。また、地域の八百屋さんに行き、野菜と触れ合う体験もしました。



次年度に向けて

保育内容の充実をより一層図るとともに、保護者様や地域住民の皆様の期待に応じた事業展開を行います。

事業内容：かぜの詩保育園12名、そらの詩保育園12名、はなの詩保育園12名、るりの詩保育園19名	
利用者層：乳児	所在地：京都市中京区、下京区、大阪府三島郡島本町
統括園長：山崎 里美	

かぜの詩・そらの詩・はなの詩・るりの詩 保育園

家庭的な温もりのある保育を目指して運営しています。

175件

障害のある方を支援して
就職につながった人数

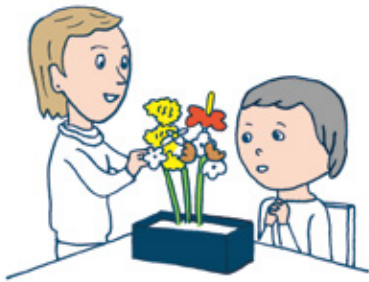
障害者就業・生活支援センターはびねす、
若年者等就労支援拠点サザン京都では、
就労へのステップアップをサポートしています。



395人

新卒エントリー数

若者人口の減少傾向により、様々な企業が
人材確保に取り組む中、法人の採用計画において
新卒のエントリーから内定へつながる確率は
高くなってきています。



1274人

ボランティア活動を
してくださった人数

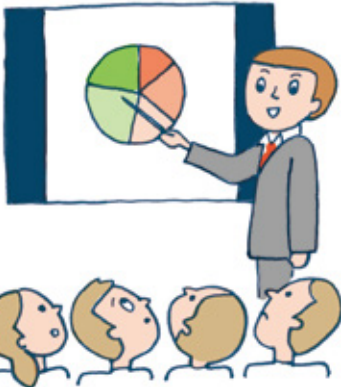
年間1,000名以上のボランティアの方に
サポートいただいています。
これからも地域の皆様とともに
さまざまなことに取り組んでいきます。



188回

地域とのつながりを深める
イベントの回数

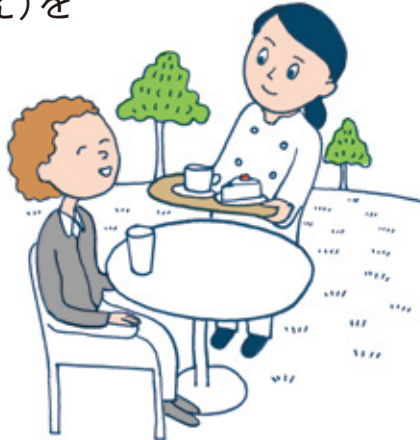
地域とのつながりを深めるため、
毎年多くのイベントを開催し、
福祉の理解を促進しています。



33535人

カフェ（ぶちぼんとkitchen+farm、
ぷらんとん、さびゆいえ）を
利用したお客様の数

地域と障害のある方の
架け橋となることを願って、
敷地内にカフェを運営
しています。



260回

法人内で開催した
職員研修の数

南山城学園では、
職員の質の向上を目指し、
積極的に職員向けの研修を
開催しています。

令和元年度(2019) 法人決算報告

単位:千円

貸借対照表

流動資産	1,857,916
固定資産	6,614,263
資産合計	8,472,179
流動負債	410,697
固定負債	781,277
純資産の部	7,280,205
負債及び純資産合計	8,472,179

事業活動計算書

サービス活動増減の部	
サービス活動収益計(1)	4,019,992
(運営収益)	3,985,642
(寄附金収益)	30,377
(その他収益)	3,973
サービス活動費用計(2)	3,853,642
(人件費)	2,369,565
(事務費・事業費)	1,281,306
(減価償却費)	202,159
(その他費用)	612

サービス活動増減差額(3)=(1)-(2) 166,350

サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計(4)	14,793
サービス活動外費用計(5)	21,406

サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5) △ 6,613

経常増減差額(7)=(3)+(6) 159,737

特別増減の部	
特別収益計(8)	36,846
特別費用計(9)	375,709

特別増減差額(10)=(8)-(9) △ 338,863

当期活動増減差額(11)=(7)+(10) △ 179,126

前期繰越活動増減差額(12) 3,957,157

当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12) 3,778,031

次期繰越活動増減差額(14)=(13) 3,778,031